

✧ 復興の槌音

昨年‘わりい’の皆様が地震見舞いの電気毛布や学用品をご寄贈下さった標高 3200m の長坪村にも5月に入ってやっと春が廻り来て溪流の傍で桜やタンポポの花が咲くようになりました(写真1)。そして民家の復旧も本格的に進んで壁が大分出来上がってきました。

ほとんどの民家では麻子石と呼ばれる花崗岩を 50 × 20 × 20cm 位に切り出した石材を積んで壁を作ります。以前は石材を泥で固めていましたが、昨年の地震でこの壁が酷く壊れた教訓から、今ではセメントで固めながら積む家がほとんどです(写真2)。ただ壁の厚さは昔の家が 50 ~ 60cm なのに対して今は 40cm 前後に減っていて、セメントを過信しているのではないかとの心配の声があります。

またコンクリートブロックも部分的に使われるようになりました。長坪村で使われているのは、日本で多く使われているものと違って、空洞がありません。日本では鉄筋を通しながらコンクリートブロックを積みますが、長坪村ではそのままセメントで固めながら積んで行きます(写真3)。昨年の地震の時はこの積み方でも崩れなかったのですが、この数年以内に建てられた新しい家での話しなので再び地震に見舞われた時が心配です。

長坪村の南側では新しい民家が 50 軒位ズラリ並んで建てられつつあります(写真4)。これは地震後に山の上などから移住して来た人達の家で、長坪村に町のような通りができつつあります。政府の計画では広場や高い石の塔や巨大な仏塔も建てられる事になっていますので、これから村の様子がガラリと変わりそうです。

長坪村の民家は建築ラッシュで忙しい雰囲気の中にありますが、昨年の地震の震源地になったアバ州全体でも一斉に短期間に地震の復旧工事を完成させようとしているため、ガソリン代に連動した生活物資値上げも加わって建築材料や建築機械のレンタル料や作業者の日当等が地震前の 2 倍位に高騰しています。加えてふんだんな復興資金を使ってそこらじゅうで道路の補修工事や、これまで手を付けなかった小さな溪流の出会いでもあちこちで新しく橋を掛けていますので、それでなくても増え

ている旅客や物資の輸送の足を引っ張っています。しかしそんな姿を見ていると何 10 年も昔の日本を思い出して、当地のバイタリティの凄さに感じ入ってしまいます。

なお以前にお知らせしましたが、日本や米国の NPO 等からの援助で建てられる事になった長坪村の新しい診療所は設計遅れのために着工が延び延びになっています。村長の話では 5 月末までには着工できるそうです。この新しい診療所が起工されましたら、またご報告致します。



写真2 以前の壁は泥で固めていましたが、昨年の地震で壊れた教訓から今ではセメントで固めながら積む家がほとんどです



写真3 コンクリートブロックは日本で多く使われているものと違って空洞がありません。



写真1 長坪村の溪流にも春が廻ってきました。



写真4 これは地震後に山の上等から移住して来た人達の家で、長坪村に町のような通りができつつあります。

- すでに掲載された「写真便り」はこちらにあります……<http://wanli.web.infoseek.co.jp/ookawasan/essey-title.html>
- 大川さんのホームページはこちら……<http://www.sgn.gov.cn/scholaweb/conts.htm>
<http://www.sgn.gov.cn/scholaweb/queenvalley.htm>